(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2020-3554
(P2020-3554A)
(43)公開日　令和2年1月9日(2020.1.9)

(51)Int.Cl.		F I		テーマコード（参考）
G09F 19/22	(2006.01)	G09F	19/22	H

審査請求 未請求　請求項の数 6　ＯＬ　（全 7 頁）

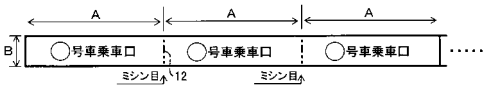
(21)出願番号　特願2018-120513 (P2018-120513)
(22)出願日　平成30年6月26日 (2018.6.26)

(71)出願人　591153145
ユニオン建設株式会社
東京都目黒区中目黒２丁目１０番１号
(74)代理人　100080458
弁理士　高矢　諭
(74)代理人　100076129
弁理士　松山　圭佑
(74)代理人　100144299
弁理士　藤田　崇
(74)代理人　100150223
弁理士　須藤　修三
(72)発明者　穴井　一寿
東京都目黒区中目黒二丁目１０番１号　ユニオン建設株式会社内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】仮設用乗車位置シール

(57)【要約】
【課題】本設用の乗車位置シールを貼付するまでの間、一時的にホームに貼付して、車両位置を迅速且つ容易にすることができる、汎用性の高い仮設用乗車位置シールを提供する。
【解決手段】本設用の乗車位置シール４０を貼付するまでの間、一時的にホームに貼付するための仮設用乗車位置シール１０であって、号車番号や編成車両数以外の部分を印刷し、号車番号や編成車両数を手書き等で追記するようにされている。ここで仮設用乗車位置シール１０を帯状とし、境界にミシン目１２を入れることができる。
【選択図】図２



【特許請求の範囲】
【請求項１】
本設用の乗車位置シールを貼付するまでの間、一時的にホームに貼付するための仮設用乗車位置シールであって、
号車番号以外の部分が印刷され、号車番号を追記するようにされていることを特徴とする仮設用乗車位置シール。
【請求項２】
編成車両数も追記するようにされていることを特徴とする請求項１に記載の仮設用乗車位置シール。
【請求項３】
連続する帯状とされ、境界にミシン目が入れられていることを特徴とする請求項１又は２に記載の仮設用乗車位置シール。
【請求項４】
前記本設用の乗車位置シールよりも小さなサイズとされていることを特徴とする請求項１乃至３のいずれかに記載の仮設用乗車位置シール。
【請求項５】
数字を追記すべき部分に数字を記入するためのガイドが印刷されていることを特徴とする請求項１乃至４のいずれかに記載の仮設用乗車位置シール。
【請求項６】
前記仮設用乗車位置シールの裏面に該仮設用乗車位置シールをホームに貼付するためのアクリル供重合体系の粘着剤が塗布されていることを特徴とする請求項１乃至５のいずれかに記載の仮設用乗車位置シール。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、仮設用乗車位置シールに係り、特に、本設用の乗車位置シールを貼付するまでの間、一時的にホームに貼付して、乗車位置を迅速且つ容易に表示することができる、汎用性の高い仮設用乗車位置シールに関する。
【背景技術】
【０００２】
近年、乗客の整列乗車を容易とするため、駅のプラットホームの車両ドアに対応する位置に乗車位置を表示する技術が幾つか提案されている（特許文献１、２参照）。
【０００３】
又、簡単な技術としては、号車番号や編成車両数等を印刷した乗車位置シールをホームに貼付することが行われている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】特開平７－１７２３１９号公報
【特許文献２】特開２００７－１７１６２９号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
一方、ホーム端部に貼られている点字警告ブロックなどのサイズや位置の変更などがあると、既に設置されている本設用の乗車位置シール（単に本設シールとも称する）を貼り替える必要がある。そこで、工事期間中は仮設用乗車位置シール（単に仮設シールとも称する）を貼っておき、全体が完成後に本設シールを貼るようにしている。
【０００６】
その際、従来は、図１に乗車位置表示仮設手順の一例を示すように、まずステップ１００で既設の本設用乗車位置シールを撤去し、次いでステップ１１０でプライマーを塗布し

、次いでステップ１２０で白ガムテープを貼り、次いでステップ１３０で白ガムテープ上に例えば黒マジックインキにより「×号車乗車口」等の文字を全て手書きで記入していた。

【０００７】

従って作業に時間がかかるだけでなく、綺麗な表示ができないという問題点を有していた。なお、乗車位置シールの交換作業は、最終電車が走り終わった後、始発電車が走り始める前までの深夜から早朝にかけて短時間で行う必要があり、非常に時間的な制限が厳しい中で迅速に行う必要がある。

【０００８】

更に、本設用乗車位置シールは、号車番号を予め印刷してあるので、ほぼ特注品と同程度となり転用ができないという問題点も有していた。

【０００９】

本発明は、前記従来の問題点を改良するべくなされたもので、本設用の乗車位置シールを貼付するまでの間、一時的にホームに貼付して、乗車位置を迅速且つ容易に表示することができる、汎用性の高い仮設用乗車位置シールを提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【００１０】

本発明は、本設用の乗車位置シールを貼付するまでの間、一時的にホームに貼付するための仮設用乗車位置シールであって、号車番号以外の部分が印刷され、号車番号を追記するようにされていることを特徴とする仮設用乗車位置シールにより、前記課題を解決したものである。

【００１１】

ここで、前記仮設用乗車位置シールに編成車両数も追記するようにすることができる。

【００１２】

又、前記仮設用乗車位置シールを連続する帯状とし、境界にミシン目を入れることができる。

【００１３】

又、前記仮設用乗車位置シールを前記本設用の乗車位置シールよりも小さなサイズとすることができる。

【００１４】

又、前記仮設用乗車位置シールの数字を追記すべき部分に数字を記入するためのガイドを印刷することができる。

【００１５】

又、前記仮設用乗車位置シールの裏面に該仮設用乗車位置シールをホームに貼付するためのアクリル供重合体系の粘着剤を塗布することができる。

【発明の効果】

【００１６】

本発明によれば、仮設用乗車位置シールに号車番号や編成車両数以外の部分が印刷されているので、手書き等による追記部分が少なく、追記作業を短時間で終了することができる。又、仮設用乗車位置シールを連続する帯状とし、境界にミシン目を入れた場合には、仮設用乗車位置シールの運搬及び切り離しが容易である。更に、仮設用乗車位置シールを本設用の乗車位置シールよりも小さなサイズとした場合には、資源を節約できるだけでなく、運搬も容易である。又、仮設用乗車位置シールの数字を追記すべき部分に数字を記入するためのガイドを印刷した場合には、数字を容易に追記できる。又、仮設用乗車位置シールの裏面に、該仮設用乗車位置シールをホームに貼付するためのアクリル供重合体系の粘着剤を塗布した場合には、ホームのアスファルト面に跡が残り易く、本設シールの復旧目安とすることができる。

【図面の簡単な説明】

【００１７】

【図１】従来の乗車位置表示仮設手順の例を示す流れ図

【図２】本発明に係る仮設用乗車位置シールの第１実施形態を示す平面図
【図３】第１実施形態における施工手順を示す流れ図
【図４】施工中に既設の本設用乗車位置シールを撤去した状態を示す平面図
【図５】同じく実施形態の仮設用乗車位置シールを仮設した状態を示す平面図
【図６】同じく本設用乗車位置シールを本設した状態を示す平面図
【図７】仮設用乗車位置シールの第２実施形態を示す平面図
【図８】同じく第３実施形態を示す平面図
【図９】同じく第４実施形態を示す平面図
【図１０】手書きを容易とするためのガイド及び記入例を示す平面図
【発明を実施するための形態】
【００１８】
以下、図面を参照して、本発明の実施の形態について詳細に説明する。なお、本発明は以下の実施形態及び実施例に記載した内容により限定されるものではない。又、以下に記載した実施形態及び実施例における構成要件には、当業者が容易に想定できるもの、実質的に同一のもの、いわゆる均等の範囲のものが含まれる。更に、以下に記載した実施形態及び実施例で開示した構成要素は適宜組み合わせてもよいし、適宜選択して用いてもよい。
【００１９】
本発明に係る仮設用乗車位置シールの第１実施形態を図２に示す。
【００２０】
本実施形態の仮設用乗車位置シール１０においては、図中に○印で示す号車番号以外の部分が印刷され、○印の号車番号を例えば手書きで追記するようにされている。
【００２１】
この仮設用乗車位置シール１０は、例えば幅Ｂが８ｃｍの帯状体で形成され、例えば長さＡが１ｍ毎にミシン目１２が入れられ、例えば１巻１０ｍ程度でロール状に巻かれている。
【００２２】
この仮設用乗車位置シール１０は、本設用の乗車位置シールよりも小さなサイズとされ、運搬や設置が容易とされている。なお、必要に応じて、本設用の乗車位置シールと同じサイズ又は本設用の乗車位置シールよりも大きなサイズとすることもできる。
【００２３】
又、この仮設用乗車位置シール１０は、本設用の乗車位置シールのように、表面がラミネート加工されておらず、安価である。
【００２４】
更に、本設用乗車位置シールは、号車番号を予め印刷してあるので、ほぼ特注品と同程度となり転用ができないが、本発明の仮設用乗車位置シール１０は、号車番号さえ手書きすればどこにでも転用できるので、汎用性が高く、且つ極めて安価である。
【００２５】
前記仮設用乗車位置シール１０の裏面には、ガムテープの成分に近いアクリル供重合体系を粘着剤として塗布して、本設シールの復旧目安とすることができる。
【００２６】
例えば、既設の３００ｍｍ×３００ｍｍの点字警告ブロック２０を、３００ｍｍ×４００ｍｍの内方線付点字警告ブロック３０に取り替える際の本実施形態における施工手順を図３に示す。
【００２７】
まず、ステップ２００で従来と同様に既設乗車位置シール８を撤去する。
【００２８】
具体的には図４に示す如く、ホーム端部６に貼られている例えば３００ｍｍ×３００ｍｍの大きさの既設の点字警告ブロック（旧点字ブロックと称する）２０を図５に示す３００ｍｍ×４００ｍｍの大きさの内方線付点字警告ブロック（新点字ブロックと称する）３

０に取り替えるため、図４中の切断ラインＣの位置で切断を行う。これにより、既設乗車位置シール８は撤去される。

【００２９】

次いでステップ２１０で、仮設用乗車位置シール１０のミシン目１２に沿ってロールから切り取る。

【００３０】

次いでステップ２２０でプライマーを塗布し、ステップ２３０で仮設用乗車位置シール１０をホーム端部６に貼り付け、ステップ２４０で数字のみ手書きして仮設を完了する。

【００３１】

具体的には、図５に示す如く、施工に支障が無い位置に、仮設用乗車位置シール１０を貼る。ここで仮設とするのは、施工期間中にモルタルや足跡などで、設置した乗車位置シールを汚す可能性があるためである。従って、施工期間中の舗装切断から据付完了までの数日間から１か月位は仮設シールで対応する。

【００３２】

内方線工事施工完了後、仮設用乗車位置シール１０を撤去し、図６に例示する如く、本設用乗車位置シール４０の貼付を行う。

【００３３】

仮設用乗車位置シール１０の粘着剤としてアクリル供重合体系を用いた場合には、ホームのアスファルト面に跡が残り易く、本設シールの復旧目安とすることができる。

【００３４】

仮設用乗車位置シール１０を用いる例としては、実施例で示した点字ブロックの取り替えの他、ホームドア工事、舗装打ち替えなどの乗降場の修繕工事、駅員の応急対策用として用いることもできる。

【００３５】

従来は、下地清掃、プライマー塗布、テープ及びシール貼付、手書きによる記入、ゴムハンマーでの圧着に２２０秒程度かかっていたのが、本発明の実施形態では９０秒程度に大幅に短縮することができる。

【００３６】

なお、仮設用乗車位置シールの種類は、第１実施形態に限定されず、図７に示す第２実施形態のように号車番号だけのものや、図８に示す第３実施形態のように編成車両数と号車番号を含むものや、図９に示す第４実施形態のように線名と編成車両数及び号車番号を含むものとして、例えば編成車両数と号車番号の２箇所を手書きとするものであってもよい。

【００３７】

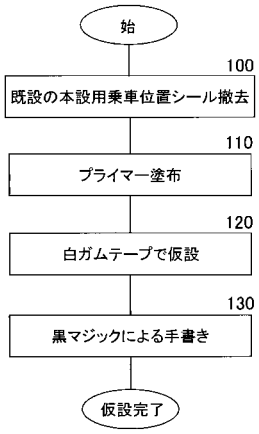
又、号車番号や編成車両数の数字は手書きを容易とするため、例えば図１０に例示するような細い点線の８の字状のガイドを印刷しておいてもよい。あるいは、別に製作した号車番号や編成車両数だけのシールを仮設用乗車位置シール１０上に上乗せして貼付してもよい。

【符号の説明】

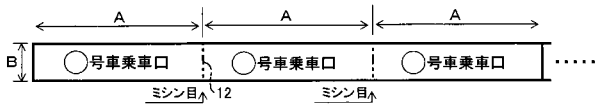
【００３８】

６…ホーム端部
８…既設乗車位置シール
１０…仮設用乗車位置シール
１２…ミシン目
２０…点字警告ブロック（旧点字ブロック）
３０…内方線付点字警告ブロック（新点字ブロック）
４０…本設用乗車位置シール

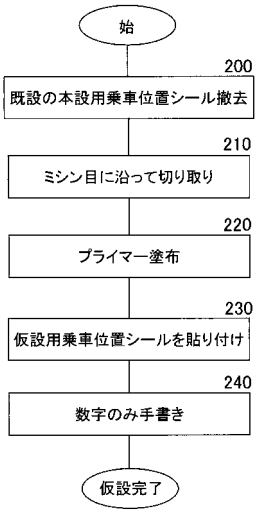
【図１】



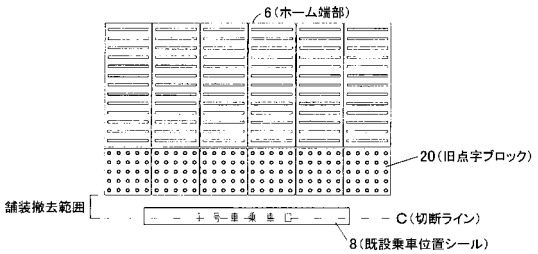
【図２】



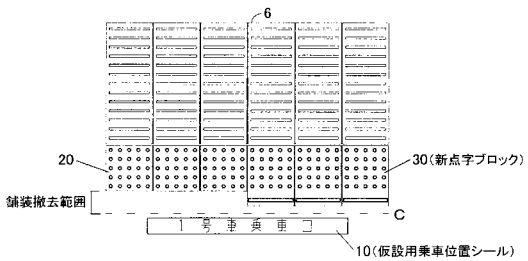
【図３】



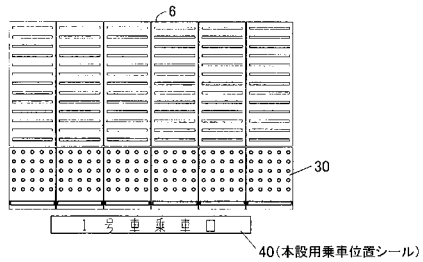
【図４】



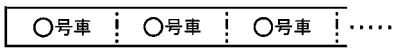
【図５】



【図６】



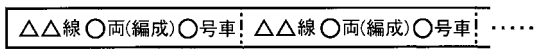
【図７】



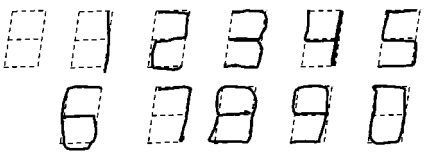
【図８】



【図９】



【図１０】



フロントページの続き

(72)発明者　橋本　英和
東京都目黒区中目黒二丁目１０番１号　ユニオン建設株式会社内
(72)発明者　小林　敬一
東京都目黒区中目黒二丁目１０番１号　ユニオン建設株式会社内